

今年度の重点目標に対する総合評価

本校は、不登校経験者や障害のある生徒、外国籍の生徒など、多様な背景を持つ生徒一人一人が夢を実現できる学びの場を目指している。そのため、授業のユニバーサルデザイン化やインクルーシブ教育の推進、進学支援を含む個に応じたキャリア教育の実践に注力している。これらを実現すべく、教育活動の充実、組織の活性化、外部機関との有機的連携を柱とする「5つの重点課題」に取り組んだ。

- (1) 「学習活動」については、単位修得率は微増傾向にあり、単位未修得者は減少した。単位修得率のさらなる向上には、学力のみならず出席率の向上が不可欠であることから、出席を促す具体的な方策が求められる。「学習時間調査」や個別指導の実施結果から、実習科目における家庭学習の記録化は、座学・実習の両面で学習態度の向上に寄与したことが伺える。今後は、生徒に自身の成長を実感させる指導や、主体的学習を促進する取組を継続することが課題である。
- (2) 「学校生活」については、挨拶の習慣化と遅刻防止を重点課題として取り組んだ。挨拶については昨年度から改善が見られたが、遅刻者数は目標を達成できず、今後も継続的な指導が求められる。しかしながら、挨拶の向上に伴い生徒全体の雰囲気好転の兆しが見える点は、大きな成果である。メンタルケア面では、心理教育やストレスチェック、その後の面談を通じて生徒の心理的安定に一定の効果が得られた。次年度は教員側の研修も強化し、組織的な支援体制を継続していく。
- (3) 「進路支援」については、早期からの受験対策や個別指導に注力したものの、とくに進学目標達成ができなかった。一方で、2年次を対象とした年2回のインターンシップや、1・2年次へのオープンキャンパス参加の推奨など、計画的かつ継続的な指導に取り組んだ結果、9割以上の生徒が明確な進路目標を持つに至った。進路希望が多様化する中、今後は実地見学や体験の機会をさらに充実させ、実体験を通して学校全体の進路意識を醸成する雰囲気づくりが必要である。
- (4) 「特別活動」については、全行事において満足度が極めて高く、生徒の成長を促す大きな要因となっている。これは、生徒に責任を持たせ自ら考えさせる指導を徹底し、一人一人が企画・運営に主体的に関与できるよう工夫した成果といえる。一方、図書貸出率は目標値を達成したものの、特定の生徒による利用が中心であり、全校的な広がりには至っていない。目標達成率を「1冊」を超えるものにするるとともに、今後は図書館の魅力化を推進するとともに、新聞等の情報に触れやすい環境づくりに努めたい。
- (5) 本年度は1年次生の端末個人購入開始に伴い、ICTの積極的な利活用を重点目標に掲げた。導入初期の混乱を最小限に抑え、円滑な運用を促すべく、1年次生を対象とした研修会を継続的に実施した。運用の定着という面では課題も残したが、研修を通じて生徒の操作習熟度やアプリの活用スキルは着実に向上している。次年度は、抽出された課題を精査して研修内容をより実践的なものへと深めるとともに、教員による効果的なタブレット端末の活用の検討も進め、ICT教育の一層の推進を図る。

次年度へ向けての課題と方策

本校では、多様な生徒に対応し、①特別支援教育の充実(通級による指導やSC、SSWの支援体制含む)、②授業改善の促進(教員の自主的研究会「教師塾」の充実)、③特別活動における生徒の主体性の向上(失敗も経験させ、改善策を考えさせるなど)に取り組む。経験不足の生徒たちが多い中、集団の中での成功体験を通して自己実現を図れるよう、地域や外部機関とも連携を深め、個に応じたきめ細かい教育を実践していきたい。

学校アクションプラン

令和7年度 志貴野高校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得率の向上（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る） ・生徒の学習実態の把握 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・登校が難しかったり、安易に授業を休んだりする生徒が見受けられる。 ・学習意欲が低く、学習習慣が身に付いていない生徒がみられる。 ・学力差が生じており、一斉授業が難しいことがある。 	
達成目標	①単位修得率	②「学習時間調査」の実施
	90%以上	2回（前期1回、後期1回）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習・生活の手引き」（授業の記録）を生徒一人一人に記録させ、自己管理を促す。 ・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的・対話的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。 ・基礎・基本を復習する機会を設ける。 ・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実させる。 ・生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成し、生徒の将来の希望に合わせた履修指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身に自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を年2回実施し、結果をフィードバックする。期末考査の期間を含めることで、考査に対する取組の振り返りを促す。（実技教科についての練習時間等を含む） ・家庭での学習時間が充実するように、教材、授業などを工夫する。
達 成 度	単位修得率（前期） 89.1% 単位修得率（後期） 88.1%	前期1回、後期1回実施
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・受講ガイダンスや受講登録を通して、生徒が単位修得について考える機会をもった。 ・履修状況を前期末の成績会議で共有した。 ・初任者研修を活用した校内での研修や他校の学校訪問を利用した授業見学の情報を共有し、授業力の向上に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・期末考査期間を含めた調査を継続的に行い、生徒の家庭学習状況の把握に努めた。今年度は、実習科目の練習時間を反映しやすいように調査し、学習内容と実技練習時間の両方を把握できるようにして考察した。 ・生徒の実態把握のため、収集したデータを職員会議で共有し活用した。
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・修得が0単位の生徒数は減少した。また、単位修得率が前年度前期調査時よりも6%上昇し、定時科目及び通信科目ともに上昇した。 ・学習時間調査については、実技教科の練習時間を反映できるように様式を変更し、より実態把握ができるようにした。実技（PC、技術検定等）練習を自宅で行っている生徒の意欲的な取組に対して、言葉がけを行うことができた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・通信科目の単位修得が難しい中で、通信科目を含めた単位修得率が90%近くあるのは十分に評価できる。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得率の向上には成績だけでなく出席率の向上が不可欠であり、出席を促す具体的な方策を検討する必要がある。 ・生徒の受講している講座によっては、家庭学習時間が伸びないものがあるので、来年度も受講した講座数及び実技練習時間と合わせて調査する。 	

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:どちらかというと達成できていない D:ほとんど達成できなかった

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立及び自己指導能力の育成 ・ 教育相談体制の充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットゲームやSNS、アルバイトなどにより朝起きられない生徒がいる。 ・ 自ら挨拶を交わすことのできる生徒が少ない。 ・ 不登校を長く経験していたり、特性等で様々な困難を抱えていたりするなど、生徒の実態が多様化している。 ・ 悩みやストレスを抱え、登校や授業への参加が困難になっている生徒が毎年みられる。 ・ 生徒が心の健康について理解を深め、主体的に考え行動できる力を育てるために、教育相談体制の充実が必要である。 	
達成目標	①学校生活アンケート	②教育相談に関する特別活動の充実 ③心の小さなSOSを見逃さない支援の充実 ④教育相談に関する教員の理解の推進
	挨拶・遅刻について 良好又はおおむね良好 70%以上	②生徒への心理教育(研修会)の実施 ③ストレスチェックの実施(年2回) ④教育相談に関する教員研修会の実施
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを行い、前月と現在を比較し自己のあるべき姿について考えさせる。また、遅刻欠席が多い生徒に対して生活習慣を見直させる。 ・ 生徒指導HRを実施し、挨拶の重要性を認識させるとともに、「あいさつ運動」を通して、挨拶の習慣を身につけさせる。 ・ 保護者等の協力を得ながら、安全なネットの利用や基本的生活習慣の確立、規範意識の向上を促す。 ・ 生徒の多様化と社会の実情に照らし合わせ、生徒への指導方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ HR活動等の中で、スクールカウンセラーによる研修会を実施し、生徒が心の健康についての理解を深める機会を設定する。 ・ 各学期に1回ずつ、生徒のストレスチェックを実施し、生徒が抱えている心のストレス状況を把握する。高ストレスを示した生徒には養護教諭による個別面談を実施し、必要に応じてカウンセリングにつなげたり、SC、SSW等と連携したケース会議を実施したりする。 ・ 教育相談に関する教員の理解を深めるため、教育相談や特別支援教育に関する研修会を実施する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする 67.1% (昨年度63.9%) ・ 遅刻をしない 54.8% (昨年度65.1%) 	②生徒への心理教育(研修会)の実施 年4回 ③ストレスチェックの実施 年2回 ④教育相談に関する教員研修会の実施 年1回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒校風委員による「あいさつ運動」を14回実施した。 ・ 各学期初めに、遅刻防止等の目的とした校内巡視を行った。 ・ 生徒指導HR(マナーセンスアップ講座)として、外部講師による挨拶についての講演を実施し、挨拶の演習を行った。 ・ 保護者会の際、長期休業中の生徒心得を配布し、高校生としての適切な生活について共通理解を図るとともに、家庭での協力を仰いだ。 ・ 個々の生徒の特性や状況を年次、保健・教育相談部と情報共有し、指導に活かしている。 ・ 7月から、職員室の生徒の入室を解除したことで、入退室の際の礼儀等の指導の場面が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ HRの時間を活用しSCを講師とした生徒向け研修会を実施した(2月実施予定も含め4回)。また、9月には全校生徒を対象とした性に関する研修会を実施した。思春期の心と体の変化の特徴を学び、自己理解を深める機会となった。 ・ 生徒保健委員会では9月研修会と連動した取組を行い、学びを深めた。「街ナカ保健室」(男女平等推進センター主催)に参加してリラックス法を学んだり、文化祭で「リラックスルーム」を企画して心と体の健康に関する展示を行ったりした。 ・ 前期後期に1回ずつ、生徒のストレスチェックを実施した。高ストレスの生徒に個別面談を行い、必要に応じてSCとの面談につなげる等の対応を行った。また、担任用マニュアルを作成し、生徒から質問された時の対応例などを載せた。 ・ 富山大学 重松潤先生(臨床心理学)を講師にお迎えして教員研修会を実施した(「高校生のメンタルヘルスの理解と支援」)。研修では、高校生に心の健康教育を実施することの意義について理解を深めることができ、実際に行われている心理教育プログラムについて学ぶことができた。
評 価	B <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度より、遅刻をしない生徒の割合は減少したが、雰囲気はよくなり、挨拶をしている生徒は増加した。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画通りに、本校における教育相談体制の充実を図った。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導の成果がでている。挨拶や時間を守ることは社会に出るために必要なことであるので、さらに伸ばしてほしい。 ・ 「生徒指導提要」の重層的支援構造を教員間で共有するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の教員研修等で積極的に大学の先生方を活用していくとよい。 ・ 「街ナカ保健室」のような企画で、今後も外部との連携を繋げていくとよい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶すること、遅刻をしないことについては、生徒自身がその重要性を気づくことが必要である。社会の変化や多様化する生徒の実情に応じた生徒の指導方法を工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の取組を充実させると共に、来年度は「心の健康教育プログラム」を本校で実施し、教育相談体制のさらなる充実を図りたい。

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて学校全体で支援する体制づくり ・キャリア発達に応じた進路支援と、主体的な進路選択・自己実現の達成 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持っていない生徒がみられる。 ・進路実現に必要な基礎学力および一般常識、マナーが不足している生徒がみられる。 ・進路決定に向けて特別な支援を必要とする生徒がみられる。 	
達成目標	① 卒業予定者の進学・就職の決定率	② 11月の進路希望調査で、進学か就職かを明確にできる生徒の割合
	90%以上	1年次75%以上 2年次85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進学のための特別補習、一般常識コンクール、外部模試等を計画的に実施することで、進路目標達成に必要な学力を育成する。 ・学科及び就職支援教員(JST)や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、自己表現力を身に付けるよう指導する。 ・進学希望者には奨学金制度の説明を十分に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、適性検査、進路講話等を計画的に行うことで、進路意識の高揚を図るとともに、主体的に進路を選択する力を育成する。 ・インターンシップやオープンキャンパスへの参加を促し、進路研究を進めるとともに、自己理解を深める機会とする。 ・キャリアパスポートでポートフォリオを蓄積する習慣を付けさせることで、自己の目標に向かっていくかを振り返りながらキャリア形成を図る。
達成度	94%	[1年次] 90% (11月調査) [2年次] 92% (11月調査)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進学のための特別補習の効果的な実施を図り、進路実現のサポートを行った。 ・外部講師を招くなど、就職のための特別補習を充実させるための取組を行った。また、JSTと連携し、より良い就職先を検討した。 ・Google Classroomを利用して奨学金情報を周知させ、進学へのサポートを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスの充実を目指し、生徒の実態に合った内容を選んだ。とくに進路講話の外部講師の選定については十分に検討した。 ・Google Classroomを利用して、生徒に進路情報を周知させた。 ・就業体験を充実させることで、適性把握の機会とするとともに、進路意識の高揚を図った。
評 価	A 目標を達成した。	A 目標を達成した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中の離職率が高くなっているため、先輩から「長く続けて良かった」などの体験談を聞く機会があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の説明会に本校の生徒が意欲的に参加していた。進路意識が高いと感じた。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・就職においては、適性にあった企業の選定・内定を目指し、将来を見据えた指導に努める。 ・進学においては、外部模試を活用するなどして学力の客観的な評価を行うとともに、進学先について情報収集して早くから生徒にアドバイスする。 ・特別な支援を必要とする生徒への対応を充実させ、進路未定の卒業生を減らすよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRにおいて進路学習が行える時間の確保を工夫するとともに、見学や体験の機会を増やすなど、年次および学校全体で進路意識が高まるような雰囲気づくりを目指す。 ・進路行事において年次との関係の強化が必要である。 ・教員に対しても、進路指導の支援になるような情報提供、および指導力向上の機会が必要である。

重点項目	特別活動		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、ボランティア活動等における生徒の積極的な参加の促進 ・図書委員会活動の活性化と読書習慣の確立 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や学校行事には、ほとんどの生徒が積極的に参加している。また、募金活動においても協力的である。 ・ボランティア活動の参加者数が、以前に比べ少なくなっている。 ・図書委員会では、貸出業務や文化祭での展示、図書館だよりの編集を行っているが、自主的に委員会活動に携わっているとは言えない。また、図書室を利用する生徒が限られており、読書習慣が確立しているとは言えない。 		
達成目標	① 学校行事の企画運営に関する満足度	② ボランティア活動に関わった生徒の満足度	③ 在籍生徒一人あたりの貸出冊数
	90%以上	80%以上	0.7冊以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、生徒の意見や要望を学校行事に積極的に取り入れ、参加意識を高める。 ・ボランティア活動の情報をこれまで以上に生徒に発信し、参加を促す。 ・学校行事やボランティア活動の後、アンケートを実施し、各行事やボランティア活動に対する生徒の積極的な関わり度や問題点を把握する。 ・アンケートを通して、生徒の声に耳を傾け、より多くの生徒が各行事に積極的に関わることができるよう工夫する。 		
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・校内生活体験発表大会91.5% ・スポーツ大会94.7% ・文化祭 99.6% ・カルタ大会 98.4% 	②97%	0.86冊
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会は2年ぶりに市の東洋通信スポーツセンターで実施をした。競技種目については生徒会執行部でアンケートを取り決定した。 ・ボランティア参加希望者には例年以上に丁寧な呼びかけをし、いちご募金の活動では生徒会執行部以外の生徒の参加が増えた。 ・各学校行事やボランティア終了後に生徒アンケートを実施し、生徒の率直な感想や気持ちを知ることができている。 		
評 価	A	目標達成度を上回ることができた。	A
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいことに先生方がチャレンジして、生徒が応えてくれている。 ・県内にとどまらず、いろいろな人と交流できる機会を作り、様々な経験を積ませてほしい。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に関しては、満足度と共に出席率を増やす工夫もしていきたい。 		

重点項目	ICT の活用	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生の学習者用端末に関してサポートを行い、利用に関するルールや活用方法等を検討する。 ・教職員の ICT 利活用能力と指導能力の向上を目指す。 	
現 状	<p>令和7年度の新生より Windows 端末から、Chromebook に切り替わるため、使用方法等が不慣れな生徒、教員が多い。また、これまでの貸与と異なり、校内における運用方法にも検討が必要となる。</p> <p>校内の教員向けに行った文部科学省のアンケート調査の結果によると、「教員が授業に ICT を活用して指導する能力」、「生徒の ICT 活用を指導する能力」の各項目における自己評価において、「できる」と回答した教員の割合が3割から5割弱である。（令和6年度）</p>	
達成目標	① 教員の ICT 活用能力、及び、指導能力の向上	② 生徒の ICT 活用の充実
	<p>ICT を活用し、生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討をできるように指導したりすることが「できる」教員の割合 70%</p> <p>生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりすることができるように指導することが「できる」教員の割合 70%</p>	<p>授業や HR などの活動において、Classroom を活用して連絡、学習への取組ができる割合 70%</p> <p>インターネットなどの活用を通して、学習を深化させることができる割合 70%</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における教育の情報化の実態等に関する調査（アンケート） ・セキュリティ研修会の実施 ・ChromeOS Flex の端末整備 ・ICT 支援員の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生向けタブレット研修会（貸与端末） ・Chromebook の設定確認と利用に関する研修の実施 ・授業活用度アンケート ・ネット安全教室（生徒指導部）
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員対象セキュリティ研修会（オンデマンド）の受講 ・生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討をできるように指導したりすること。できる：28.9% ややできる：46.7% ・生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりすることができるように指導すること。できる：46.7% ややできる：42.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業等でどれくらいの頻度でタブレットを活用しているか。（週1回以上） 1年次：53.8% 2年次以上：82.1% ・タブレットが学習に役立っていると感じるか。（とても役立っている、または、ある程度役立っている） 1年次：75.9% 2年次以上：87.4%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教育情報セキュリティ研修の実施（教職員全員） ・ICT 支援員の活用（端末整備等のサポートなど。） ・Chrome OS Flex 端末の配備（新入生向けの Chromebook の検証機として） ・ICT 研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育用クラウド（GWFE）活用のための研修会（1年次対象・4月実施） ・Chromebook 端末の研修（1年次対象・9月実施） ・タブレット活用に関するアンケート（2月）
評 価	C	B
学校関係者の意見	<p>学校における教育の情報化の実態に関する調査の結果、「できる」と回答した教員の割合の増加はみられなかったものの、「ややできる」と合わせると70%を超えている。</p>	<p>9月から1年次が Chromebook を使い始めた。概ねスムーズな導入ができ、授業等で活用することができた。</p>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教員、生徒が適切かつ安全な ICT の活用ができるように、定期的な研修会等の実施、教職員の情報活用能力を高めるとともに、生徒への適切な活用を全職員が指導できることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校と学校に登校しておらず、キーボード入力に時間がかかる生徒なども多く、1年次のタブレットの利用状況を調査したところ、約6割の生徒は家庭での学習にタブレットを活用できていない（週0回）という結果であった。学校、家庭など、様々な場面で活用する機会をつくり、情報活用能力の向上につなげていくことが重要である。